



現代日本語における漢語副詞の仮名表記問題に対する一考察 : 「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を用いた計量的調査

鄧, 琪

(Citation)

統計数理研究所共同研究リポート, 456:166-185

(Issue Date)

2022-03-03

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81013076>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81013076>



現代日本語における漢語副詞の仮名表記問題に対する一考察

—「現代日本語書き言葉均衡コーパス」を用いた計量的調査—

鄧 琪(神戸大学大学院生)

dengqixq123@gmail.com

A Study on the *Kana* Notation of *Kango* Adverbs in Japanese

—A Quantitative Survey Using BCCWJ Corpus—

DENG, Qi (Kobe University, Graduate Student)

概要

本研究は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を用い、漢語の仮名表記問題に対して、(1)表記のゆれがどの程度存在しているのか、(2)表記選択に影響する要因はどのようなものか、(3)表記のゆれが存在する語彙について異なる表記に意味やニュアンスの違いが存在するかを調査した。その結果、(1)漢語副詞・形状詞に絞った場合、仮名表記を持つ漢語の数は全漢語の7割程度を占めているが、仮名表記を持つ漢語のうち7割以上は「局所的・例外的出現」のレベルを超えない範囲で仮名表記を使用していること、(2)影響要因について、仮名表記率と音転訛率との間に中程度の相関があり、また、漢語の意味分野と関係していること、(3)漢語「奇麗」を例とした場合、表記の選択は使用される分野による影響が大きく、また、カタカナ表記「キレイ」は他の表記より名詞用法に多用され、視覚的にきわだたせる効果を発揮する傾向があること、などが明らかになった。

キーワード

漢語, 仮名表記, コーパス

1. はじめに

日本語には、漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベットなど多様な文字が存在するが、漢語について言うと、漢字で表記されるのが一般的である(『新版日本語教育事典』(2005)など)。しかしながら、実際の日本語において、漢語の表記は必ずしもこのようなルールに従うものではない。以下は、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」からの用例である。

(1) 夜景を綺麗に撮るには、暗いところはしっかりと真っ暗に写す必要があります。

(PB17_00273)

(2) きれいに焼き目のついたお豆腐ステーキともなれば、なんだかプロっぽくも見えてくるから不

思議だ。(PB27_00199)

(3) みなさま、キレイへのチャンスですよ！是非この機会にみなさまもご体感され、「肌キレイになったね」と褒められ、一緒ににやけましょう！(OY14_39131)

上記の例を見るとわかるように、同じ漢語「奇麗」に対して、漢字(例 1)で表記されるだけではなく、ひらがな(例 2)やカタカナ(例 3)で表記される場合もある。このように、日本語の中には、ある漢語の表記について文字間のゆれが存在する。こうした漢語の表記のゆれに関して日本語教育の観点から問題となるのは以下の 2 点である。

1 点目は、どの程度の語彙についてゆれが存在するのかがはっきりしないということである。もしゆれが少数しか存在しないのであれば具体例を直接学習者に教えるのが有効だが、ゆれが多数存在する場合、具体例を学習者に覚えさせるのは非効率的で、ゆれの発生する法則やルールを学習者に教える必要がある。

2 点目は、異なる表記の間に使い分けが存在するかどうか不明だということである。表記の選択が意味機能的な使い分けによるものではなく個人の選好によるのであれば、学習者に当該語に関して表記のゆれが存在するという事実だけを伝えれば十分であるが、異なる表記間に意味機能の上での使い分けが存在する場合、各表記が持つニュアンスの違いを学習者に教えることが必要になってくる。

上記をふまえ、本研究は、(1) 漢語の重要語彙について表記のゆれがどの程度存在しているのか、(2) ゆれが存在する語彙について、異なる表記間でのニュアンスの違いが存在するかどうかを調査する。

2. 先行研究

ここでは、漢語の仮名表記問題に関わる研究を見ていくわけであるが、漢語だけを取り出して調査した研究が多くないため、ここでは日本語全体と一緒に調査した研究も合わせて見ることとする。

まず、日本語全体の仮名表記ゆれに注目した研究について、斎賀(1955)(総合雑誌, カタカナ表記), 土屋(1976)(新聞, カタカナ表記), 佐竹(1989)(若者文章, カタカナ表記), 金城(1998)(広告, カタカナ表記語とアルファベット表記語), 中山(1998)(新聞, 非外来語のカタカナ表記), 成田他(2004)(新聞, 非外来語のカタカナ表記), 堀尾他(2005)(若者雑誌, 非外来語のカタカナ表記), 則松他(2006)(若者雑誌, 非外来語のカタカナ表記), 喜古(2007)(戦後小説, カタカナ表記), 松田(2007)(新聞, カタカナ表記), 奥垣内(2010)(Web・小説, 非外来語のカタカナ表記), 小椋(2012)(白書・新聞・雑誌・書籍・Web の 5 媒体, すべての表記ゆれ), 増地(2013)(テレビ番組におけるテロップなどの文字情報, 非標準的なカタカナ表記), 柏野(2014)(書籍, カタカナ表記), などが挙げられる。また、漢語の仮名表記だけに注目した研究について、吉村(1982)(新聞雑誌, カタカナ表記), 間淵(2017)(「現代日本語書き言葉均衡コーパス」, 仮名表記), などが挙げられる。以下、それぞれの研究において挙げられた仮名表記の理由について表 1 にまとめる。

表 1 先行研究に挙げられた仮名表記の理由

要因		先行研究
漢字 特性	a. 漢字制限	斎賀(1955), 土屋(1976), 吉村(1982), 中山(1998), 堀尾他(2005), 間淵(2017)
	b. 漢字と意味の分離	吉村(1982), 堀尾他(2005), 奥垣内(2010)
	c. 親密度	間淵(2017)
	d. 画数	
音韻 特性	a. 表外音訓	堀尾他(2005)
	b. 音転訛形／ことばの音声が際立つ	間淵(2017), 喜古(2007), 成田他(2004), 柏野(2014)
意味 特性	a. 第1義でない場合	中山(1998), 柏野(2014)
	b. 意味に特別のニュアンスや効果を持たせる	斎賀(1955), 土屋(1976), 吉村(1982), 中山(1998), 成田他(2004), 喜古(2007), 柏野(2014)
	c. 意味分野	則松他(2006)
	d. 語義分野	斎賀(1955), 間淵(2017)
使用 環境	a. カタカナで書く習慣のあるもの(たとえば, 地名や人名, 動植物名, 擬声擬態語, 医学・衛生関係の語など)	斎賀(1955), 土屋(1976), 成田他(2004), 堀尾他(2005), 柏野(2014)
	b. 分野(ジャンル)差	小椋(2012), 増地(2013), 柏野(2014), 間淵(2017)
	c. 表記上きわだたせるもの	吉村(1982), 中山(1998), 堀尾他(2005)
	d. 表記の段階で他とのバランスを考えたと思われる場合	中山(1998)
	e. 品詞性	吉村(1982), 金城(1998), 間淵(2017)
個人 習慣	執筆者個人の習慣	斎賀(1955)

上記のように, 先行研究は様々な知見を示しているが, (1)それぞれの研究が異なるデータを用い, 異なる調査対象を扱っているため, 統合的な説明に達していないこと, (2)特殊表記の存在するものだけを取り上げた分析はあるが, その前提として特殊表記の発生確率を調べた研究は少ないこと, (3)ほとんどの先行研究では多種の品詞を混ぜて調査しており, 品詞別の観察は十分ではないこと, (4)教育的応用の視点が十分にふまえられていないこと, といった課題も残る。本研究は, これらの点で新たな知見を得ることを目指す。

3. リサーチデザインと手法

3.1 研究目的と RQ

すでに述べたように, 本研究は漢語の仮名表記問題に対して, (1)表記のゆれがどの程度存在しているのか, (2)表記選択に影響する要因はどのようなものか, (3)表記のゆれが存在する語彙について異なる表記に意味やニュアンスの違いが存在するかを調査する。なお, 漢語の表記は, 品詞によって出方が異なり, 名詞や動詞よりも副詞類において生じやすいと考えられるため(間淵, 2017), 本研究では, 副詞(例:「勿論」)と, 副詞的に使用できる形状詞(形容動詞語幹部分。例:

「奇麗(に)」に絞って調査を行う。

上記をふまえ、以下のような課題を設定した。RQ1 と RQ2 では全体傾向を概観し、RQ3 ではサンプル語を決めて用法を調査する。

3.2 データ

本研究では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, 以下 BCCWJ)を利用する。BCCWJ は、国立国語研究所が中心となって開発した日本語に関する初めての大規模均衡コーパスである。BCCWJ は従来の単一種類のテキストを集めたコーパスと異なり、書籍・新聞・雑誌・白書・ブログなど様々なレジスターのテキストを集め、書き言葉の多様な実態をとらえることができるデータとなっている(山崎, 2011)。データ量は英語の大型コーパスである BNC と比肩する 1 億語となっている(石川, 2012)。

3.3 手法

3.3.1 調査対象語

調査する語彙の範囲は、鄧(2021)で抽出した重要漢語 2865 語に絞る。鄧(2021)では、非和語系語彙に後続する連体修飾標識の許容度がどのように異なるかを調査するために、重要漢語 2865 語と重要外来語 1612 語を抽出した。具体的な手法については、BCCWJ におけるすべての 2 文字漢語を抽出し、各漢語の重要度として「重要度＝コーパスにおける出現頻度×(1/言語変種順位平均値)」という式で計算し、その値に基づき順位付けを行う。また、総頻度に占めるカバー率が 80%の語の数を目安として重要語の抽出を行い、重要度順位による漢語語彙 2,865 語が抽出された。なお、言語変種は、BCCWJ における書籍(「出版・書籍」と「図書館・書籍」, 「特定目的・ベストセラー」を合わせて 1 つの言語変種と見なす)、雑誌、新聞、白書、教科書、広報紙、Yahoo!知恵袋、Yahoo!ブログ、法律、国会会議録という 10 変種に、話し言葉(CEJC)を加えた 11 変種である。

本研究では、上記の重要漢語のうち、仮名表記が生じやすいと想定される形状詞と副詞に調査対象を絞る。形状詞については、BCCWJ における品詞タグが「形状詞」から始まるもの(「形状詞_一般」「形状詞_一般, 副詞」「形状詞_一般, 名詞_普通名詞_サ変可能」「形状詞_一般, 名詞_普通名詞_一般」「形状詞_一般, 名詞_普通名詞_副詞可能」)を抽出した。副詞については、品詞タグが「副詞」から始まるもの(「副詞」「副詞, 形状詞_一般」「副詞, 形状詞_一般, 」「副詞, 形状詞_一般, 名詞_普通名詞_一般」「副詞, 名詞_普通名詞_サ変可能, 形状詞_一般」「副詞, 名詞_普通名詞_一般」「副詞, 名詞_普通名詞_一般, 形状詞_タリ」「副詞, 名詞_普通名詞_一般, 名詞_普通名詞_サ変可能」「副詞, 名詞_普通名詞_形状詞可能」)を抽出した。これにより、調査対象語は 131 語(そのうち、漢語副詞 32 語、漢語形状詞 99 語)となった。なお、BCCWJ における品詞ラベルは形態論情報に基づくもので、必ずしも個々の漢語の使用実態や用法に基づいたものではないが(間淵, 2017)、本研究では品詞ラベルを個々の語のとりうる品詞の典型と見なす。

3.3.2 各 RQ の手法

RQ1 について、まず、個々の調査対象語に対して、仮名表記された用例の数と、漢字表記された用例の数を数え、分析の基礎資料とした。なお、仮名表記といっても、ひらがなとカタカナの両方が考えられるが、本研究はこれらを合わせて仮名表記と呼ぶ。また、2種の表記の中では漢字表記がデフォルトで、仮名表記が特殊形であると考えられることから、仮名表記頻度を全体頻度で割って、仮名表記率を算出した。分析は、(1) 全体における仮名表記率と漢字表記率の調査、(2) 異なる仮名表記率ごとの該当漢語の調査、という2段階で進める。

RQ2 について、すでに述べたように、漢語の仮名表記に影響を及ぼす要因としては、漢字・音韻・意味など、様々なものが考えられる。具体的な要因および本研究における扱いについては以下の表2のようにまとめられる。

表2 想定される仮名表記の影響要因

要因		本研究における扱い	
漢字特性	a. 漢字制限	○	
	b. 漢字と意味の分離	×	この点については計量的かつ客観的に処理することが難しく、先行研究においても筆者の判断に頼るものが多かったため、RQ2 において扱わないこととする。なお、RQ1 において、仮名表記率の高いものと低いものを例として取り上げてこの点について見ていきたい。
	c. 親密度	○	
	d. 画数	○	この点については漢字制限と似ている部分もあるが、表内漢字であっても画数の多いものと少ないものがあり、一般に、画数の多いものは仮名表記しやすいと考えられるため、本研究はこの点についても調査を行うこととする。
音韻特性	a. 表外音訓	○	
	b. 音転訛形／ことばの音声が際立つ	○	
意味特性	a. 第1義でない場合	×	個々の語の使用実態や用法を調査することになるため、RQ3 の事例調査において扱うこととする。
	b. 意味に特別なニュアンスや効果を持たせる	×	
	c. 意味分野	○	
	d. 語義分野	×	先行研究において動植物名や植物などに関連する語彙の仮名表記率が高い傾向にあることが報告されたが、本研究は副詞化しやすい漢語(副詞・形状詞)に絞り、これらの語彙分野に該当する語彙が少ないと考えられるため本研究は調査しないこととする。
使用環境	a. カタカナで書く習慣のあるもの(たとえば、地名や人名、動植物名、擬声擬態語、医学・衛生関係の語など)	×	これらの観点について、実際の文脈に踏まえて、個々の語の使用実態や用法を調査することになるため、RQ2 において扱わないこととする。なお、RQ3 の事例調査において具体的な漢語を取り上げて見ることとする。
	b. 分野(ジャンル)差	×	
	c. 表記上きわだたせるもの	×	
	d. 表記の段階で他とのバランスを考えたと思われる場合	×	
	e. 品詞性	×	
個人習慣	執筆者個人の習慣	×	本研究においては個人差を扱わないこととする。

上記をふまえ、RQ2 では、(1)漢字の特性(a.漢字制限, b.親密度, c.画数), (2)音韻特性(d.表外音訓, e.音転訛形), (3)意味特性(f.意味分野), の 3 つを取り上げて調査を行う。具体的な調査手法は以下の表 3 のようになる。

表 3 各影響要因および調査手法

観点		手法
漢字の特性	a.漢字制限	『常用漢字表』にある漢字であるかを調べる。 たとえば、「勿論」であれば「勿」は表外漢字となる。
	b.親密度	ある語は日本語語彙における重要度や親密度と相関がある(天野・近藤(2000)など)ため、ここでは、親密度を代表する指標として、各漢語の BCCWJ における頻度をあげる。 たとえば、「到頭」であれば、BCCWJ における頻度は 1889 である。
	c.画数	漢語を構成する 2 文字の画数を数える。 たとえば、「到頭」であれば、「到」は 8 画、「頭」は 16 画であるため、合わせて 24 画となる。
音韻特性	d.表外音訓	『常用漢字表』にある読み方であるかを調べる。 たとえば、「到頭」であれば「到(とう)」と「頭(とう)」の両方とも『常用漢字表』に載る読み方であるため、2 文字とも表内音訓となる。
	e.音転訛形	この漢語の通常の発音と違う発音で仮名表記されている用例の頻度を調査する。 たとえば、「一杯」であれば「いっぱい」と発音すべきが、「三歳なんてまだまだいーぱい甘えたい時期ですよ」(OC10_01007)という用例においては「いーパイ」と発音するため、これは音の転訛形の 1 例として数える。
意味特性	f.意味分野	個々の語について語義分類を調査する。語彙分類については、国立国語研究所が刊行した『分類語彙表』に準ずる。なお、『分類語彙表』では、まず、「体の類」(名詞の類),「用の類」(動詞の類),「相の類」(形容詞・形容動詞・副詞・連体詞の類),「その他の類」(一部の副詞, 接続詞, 感動詞)という 4 つに分類し、それから、意味的に大きなまとまりである(抽象的關係)〈人間活動の主体〉〈人間活動—精神および行為〉〈生産物および用具〉〈自然物および自然現象〉という 5 つの部門に分類している。さらに、部門より小さい意味的なまとまりを示すために、《様相》や《量》などのような中項目 50 個(類を区別しない場合)を設けている。ここでは、まずより大きなまとまりである部門と仮名表記率の関係を概観してから、より小さいまとまりである中項目と仮名表記率の関係をみていく。 たとえば、「到頭」であれば、語義部門は〈抽象的關係〉であり、中項目は《時間》である。

RQ3 について、RQ1 で計算された仮名表記率が 30%~70%にある漢語のうち、重要度ランキングもっとも高い「奇麗」をサンプルとして調査する。分析は、(1)分野, (2)品詞用法, (3)共起語という 3 つの観点について、仮名表記と漢字表記において使い分けがあるかを調査する。

まず、(1)について、表記ごとに、韻文を除いた 12 ジャンルにおける出現頻度を数える。なお、「出版・書籍」,「図書館・書籍」,「特定目的・ベストセラー」という 3 つのジャンルについては同じく書籍に分類する。

(2)について、各用法で使った各表記の数を数える。個々の表記が具体的にどのように使われているかについて、本研究は実際のデータを観察し、筆者がラベリングしていく。具体的には以下の 5 種にまとめられる。

[[kirei]+ナ+名詞](以下、「ナ」用法と略称する):(4)春と言えば桜なんですが、先日実家の庭に咲いていた桜草もなかなかきれいな花です。(OY14_50717)

[[kirei]+ニ+動詞](以下,「ニ」用法と略称する):(5)止んだ後は,空気も新鮮だし,町もきれいになるし,人々の気分はたいへんよくなる。(LBk3_00042)

[[kirei]+だ](以下,「ダ」用法と略称する):(6)空から見たけしきはきれいだった。(PB53_00335)

[名詞用法]:(7)本当のキレイを手に入れるために,「美肌キープの法則」をお教えます。(PB3n_00099)

[定型句用法]:(8)サーフな気分を取り入れたきれいめな着こなしが新鮮。(PM31_00861)

最後に,(3)共起語について,個々の用例における「奇麗」の共起語について調査していく。なお,共起語と言っても前後の様々な要素が含まれると考えられるが,ここでは,連体用法で使われている時に「奇麗」の後ろに来る体言(例(4)における「花」と,連用用法で使われている時に共起する動詞(例(5)における「なる」),そして,述語用法で使われている時にその句の主語(例(6)における「景色」という3つの共起語に注目し,それぞれを抽出して頻度を数える。

なお,連体用法で使われている時に注目すべきは,以下のような用例であった。

(9)きれいな(青緑色のネクタイ)も,あらぬ方向に曲がって凍りついていた。

(10)色でいうと,通常レバーは赤みがキレイな(小豆色のもの)が最高だ。

上記のいずれについて,A:(きれいな青緑色)のネクタイ,(キレイな小豆色)のもの,および,B:きれいな(青緑色のネクタイ),キレイな(小豆色のもの)という2種の解釈が可能であるが,本研究はもともと直接に修飾がかかる「青緑色」と「小豆色」を共起語として抽出する。

4. 結果と考察

4.1 RQ1 全体傾向

まず,(A)対象漢語(副詞・形状詞)全体の仮名表記率について,以下の結果が得られた。

図1 漢語の仮名表記トークン率

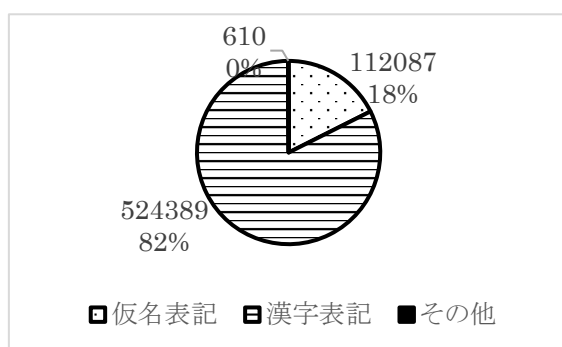


図2 漢語の仮名表記タイプ率

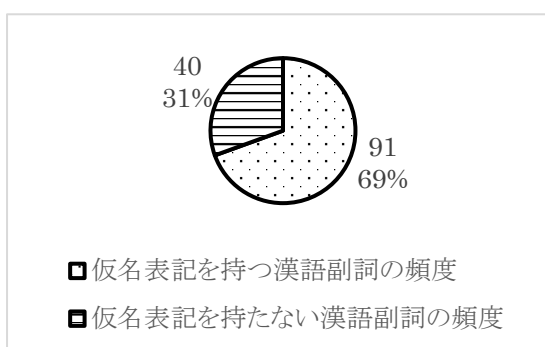


図 1 と図 2 を見ると、延べ 637,086 回の漢語使用のうち、18%が漢字以外の仮名で表記されている。また、全 131 種の漢語のうち、69%に達する 91 種の語で、漢字以外の仮名で表記する場合があることが確認された。先行研究の多くは、仮名表記が存在する語彙を対象として調査したもので、漢語の仮名表記が全表記に占める比率、そして仮名表記が存在する漢語は全漢語に占める比率について報告したものはほとんどなかったが、今回の結果から見ると、漢語副詞・形状詞に絞った場合、仮名表記は全表記の 2 割程度、仮名表記を持つ漢語の数は全漢語の 7 割程度を占めており、普通に見られる現象であることが確認された。

次に、(B) 仮名表記率の高い／低い漢語に関して、以下の結果が得られた。

表 4 各階級に属する漢語

連母音 表記率	語数	外来語(見出しは BCCWJ の語彙素表記に従う)
100%	0 語	
90%～	4 語	到頭, 精々, 勿論, 折角
80%～	4 語	丁度, 段々, 大分, 沢山
70%～	4 語	一杯, 無論, 大抵, 一旦
60%～	3 語	随分, 奇麗, 是非
50%～	1 語	多分
40%～	4 語	到底, 一体, 早速, 曖昧
30%～	2 語	一層, 一向
20%～	3 語	余計, 丁寧, 結構
10%～	4 語	一番, 全然, 大変, 立派
0%～	62 語	頻繁, 地味, 丈夫, 簡単, 依然, 突然, 懸命, 上手, 案外, 大切, 肝心, 別々, 大事, 夢中, 微妙, 無事, 非常, 相当, 十分, 当然, 残念, 一見, 強引, 必死, 大胆, 堂々, 奇妙, 幼稚, 特別, 新鮮, 熱心, 容易, 透明, 強烈, 不当, 有利, 貴重, 正直, 厳密, 簡易, 完全, 優秀, 豊富, 最適, 有効, 同等, 単純, 活発, 無数, 確實, 顕著, 有名, 直接, 急激, 独自, 純粹, 独特, 高度, 知的, 急速, 巨大, 重要
0%	33 語	順次, 公的, 可能, 同様, 適切, 明確, 特殊, 主要, 多様, 新規, 意外, 同一, 適正, 深刻, 高等, 正式, 重大, 単独, 健全, 不要, 法的, 的確, 有力, 温暖, 順調, 柔軟, 円滑, 迅速, 不法, 有害, 良好, 特有, 着実, 私的, 広大, 偉大, 密接, 率直, 性的, 忠実

上表に示されるように、漢語の仮名表記率は語によって 0%～99%まで、きわめて大きくぶれることが確認された。また、仮名表記を許容する漢語のうち、73%の仮名表記率は 10%未満であり、7 割以上の漢語は「局所的・例外的出現」のレベルを超えない範囲で仮名表記を使用していることがわかった。すなわち、多くの漢語に対して、仮名表記という現象は特殊なものに留まり、これらの語彙について特に 2 表記の使い分けを学習者に教える必要性が低いと考えられる。それに対して、仮名表記の高い語彙が多く存在しないため、これらの語彙について直接学習者に提示したほうが有効なのではないかと考えられる。特に漢字知識を持つ中国語を母語とする学習者について言えば漢字で表記する傾向があると考えられるが、どのようなものが仮名で表記するのがより一般的で

あることを教えることが非常に重要になってくる。

また、仮名表記を持つ 2 字漢語全体を調査した間淵(2017)の結果と比べると(表 7), 副詞と形状詞に絞った場合, 仮名表記率の高いものが多くなり, 仮名表記率 50%以上の漢語の比率は間淵(2017)よりおよそ 1 割程度多いことが確認された。すなわち, 漢語の仮名表記は, 全体より副詞と形状詞のほうがより多く見られると言えるであろう。

表 5 間淵(2017)との比較

研究 \ 仮名表記率	～25%	～50%	～75%	～100%
間淵(2017)	82%	8%	5%	5%
本研究	74%	9%	7%	11%

仮名表記率の高い副詞(到頭, 精々など)の多くは, 全体の意味が, 語を構成する 2 文字の字義から抽象化しており, 個々の漢字の意味から語の意味を推測することが難しい。一方, 仮名表記率の低い副詞(順次, 直接など)の多くは, 語の意味と, それを構成する字義の関連が強く, 漢字を見れば単語の意味が推測できる。以下, 仮名表記率がもっとも高い 3 語(なお, 「勿論」についてはすでに述べたように, 表外漢字を含む点で仮名表記を選好すると考えられるため, ここでは 4 番目の「折角」を見ることとする), および, 仮名表記率がもっとも低い 3 語を例として, それぞれの副詞の意味, および, その副詞を構成する漢字の意味を見ていく。

表 6 各副詞およびそれを構成する漢字の意味

副詞		意味(『スーパー大辞林 3.0』より一部抜粋)
到頭	到頭	最終的な結果として物事が実現した, あるいは実現しなかったという意を表す。ついに。結局。
	到	(1)いきつく。いたる。(2)配慮がゆきとどく。
	頭	(1)あたま。(2)かしら。(3)祭礼・集会などの世話役。頭人。(4)律令制で, 寮の長官。
精々	精々	(1)できるだけ。一生懸命。 (2)最大限見積もってもそれが限度だという気持ちを表す。多くても。力の限り物事を行うさま。
	精	(1)生物の根元にあるもの。たましい。精霊。多く人間以外の霊魂についていう。スピリット。 (2)生命の根本にある力。心や体に備わる力。精力。(3)まじりけのないもの。
折角	折角	(1)①努力・尽力・期待が空しくなって残念に思う意を表す。 ②相手の努力・尽力・期待にこたえられなくて, 申し訳ない気持ちを表す。 ③稀にしかないこと, 幸運などが無駄になって, または, 生かせなくて惜しい, 残念だ, という気持ちを表す。 (2)十分に気をつけて。せいぜい。つとめて。
	折	(1)おる。おれる。(2)くじく。(3)責める。(4)わける。(5)死ぬ。
	角	(1)4 角。方形。また, 4 角なさま。 (2)1 点から出る 2 本の半直線で作られる図形。また, その開き方の度合い。角度。 (3)将棋の駒の 1。角行。 (4)つので作った笛。中国から伝わり, 古く軍隊で用いた。つのぶえ。

		(5) 中国・日本の音楽理論でいる 5 音のうち、低い方から数えて 3 番目の音。 (6) 28 宿の 1。(7) 紋の輪郭として使われる正方形。平角・隅入角など。
順次	順次	順序 に従って、物事をするさま。順繰り。順に。
	順	物事の先であるか後であるかの関係。
	次	序数詞。回数・ 順序 などを表す。
直接	直接	(1) 間に何も挟まず、対象に直に接するさま。 直に。そのまま。 (2) 回り道や寄り道をしないで、目的地に行くさま。まっすぐ。
	直	間に他のものが入らないこと(さま)。 直接。じか。
	接	近づく。ふれる。
正直	正直	(1) うそやごまかしのないこと。 裏表のないこと。また、そのさま。 (2) 本当のところ。正直に言って。
	正	間違いのないこと。 うそでないこと。
	直	物事の関係がごく近い・こと(さま)。

この点について、先行研究でも漢字本来の字義からかけ離れた語義を表す場合仮名表記を選ばれやすいと報告されたが(吉村(1982)や堀尾他(2005)など)、この要因は副詞の表記に影響する大きな要因であることが今回の調査から示唆されたといえる。

以上 RQ1 において、(A)トークンで見ると、仮名表記は全体の 20%を占めており、タイプで見ると、約 7 割の漢語が仮名表記を許すこと、(B)仮名表記を許容する漢語のうち、73%の語は仮名表記率が 10%未満であり、「局所的・例外的」な仮名表記にとどまっていること、そして、構成する 2 種の漢字の字義が抽象化され、個々の漢字から語の意味を推測しにくい漢語の仮名表記率が高いこと、などが確認された。

教育的観点から言えば、学習者に対して、(1)漢語であっても漢語表記と仮名表記の両方が存在すること、(2)多くの漢語に対して、仮名表記という現象は特殊なものに留まっていること、(3)特に漢字知識を持つ中国語を母語とする学習者に対して仮名表記率の高い漢語を明示し、これらの漢語について仮名で表記するのがより一般的であること、などを教えることが重要であると考えられる。

4.2 RQ2 選択要因

以下、RQ2 では、仮名表記を選択する要因について見ていく。すでに述べたように、本研究では、仮名表記の選択要因候補として、(A)漢字の特性(a.漢字制限, b.親密度, c.画数)、(B)音韻特性(d.表外音訓, e.音転訛形)、(C)意味特性(f.意味分野)、の 3 つを取り上げて調査した。以下、それぞれについて調査結果を示す。

(A) 漢字特性の影響

まず、a.漢字制限との関係について見ておこう。一般に、表外漢字を含む語について、漢字表記を避け、仮名表記される傾向にある(堀尾他, 2005)と報告されている。常用漢字表において上記の語彙にある文字の存在の有無を確認したところ、常用漢字表にないものは副詞「勿論」におけ

る「勿」の 1 文字しかないのであった。「勿論」の仮名表記率は 93.10%であり、先行研究で示したように常用漢字表以外のものは仮名表記を 선호する傾向が見られるが、仮名表記率のうち、常用漢字表以内のものもたくさん存在している。間淵(2017)が全体漢語に対して調査を行った結果、表内字のみの漢語は圧倒的に仮名表記率が低いことが確認されたが、今回副詞に絞った結果、表内漢字であっても仮名表記率の高い漢語が一定程度存在し、このルールだけでは必ずしも副詞の仮名表記のメカニズムが説明できるとは言えない。

図 3 漢語頻度と仮名表記率の散布図

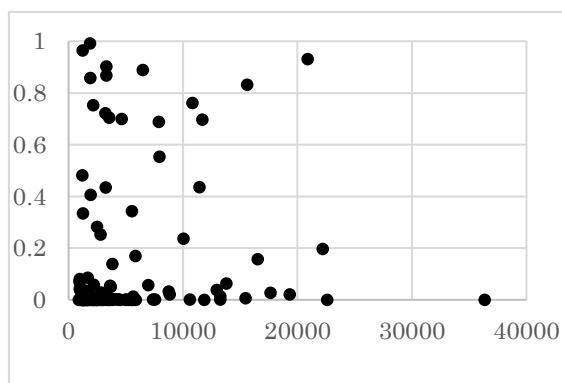
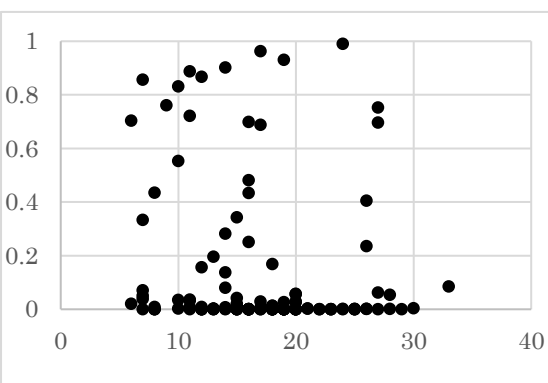


図 4 漢語画数と仮名表記率の散布図



次に、b.親密度と仮名表記の関係について見ていこう。すでに述べたように、ここでは、BCCWJにおける各漢語の頻度が親密度を代表する指標の 1 つとして調査していく。その結果、各漢語の頻度と仮名表記率の関係は以下の図 3 のようになる。

間淵(2017)では、常用漢字であれば総じて仮名表記率が低い中で、語彙レベル(頻度の累積比によって 5 段階分類したもの)が高いほど仮名表記率は低く、語彙レベルが低いほど仮名表記率は高くなる傾向があると報告されたが、図 3 を見ると、頻度が高いほど仮名表記率が低い傾向が見られなかった。また、頻度と仮名表記率の相関を求めたところ、両者の間には有意な相関が認められなかった($r=-0.136, p=.12$)。

最後に、c.画数と仮名表記の関係について見ていく。各漢語の画数を数えたところ、図 4 が得られた。一般に、画数の多い漢字は仮名表記しやすいかと思いがちであるが、図 4 を見るとわかるように、今回のデータに限って言うと、画数と仮名表記率との間には必ずしも関係しているとは限らない。また、各漢語の画数と仮名表記率との相関を求めたところ、両者の間には有意な相関が認められなかった($r=-0.147, p=.09$)。

(B) 音韻特性の影響

漢語の音韻特性が仮名表記率に与える影響について、まず、d.表外音訓について見てみよう。表外音訓も、表外漢字と同様に、一般的な読み方でないため仮名表記されやすいとされている(堀尾, 2005)。調査を行った結果、表外音訓であるものは副詞「勿論」における「勿」の 1 文字しかなかった。すでに述べたように、「勿論」の仮名表記率は 93.10%であり、確かに先行研究と同じ傾

向が見られるが、今回のデータにおいて表外音訓の数が少ないため、この点については客観的検証にはならなかった。

次に、e.音転訛形は仮名表記率に影響しているかを見てみよう。音転訛形というのは、通常の漢字音から逸脱している音で表記される形のことである。たとえば、以下のような用例である。

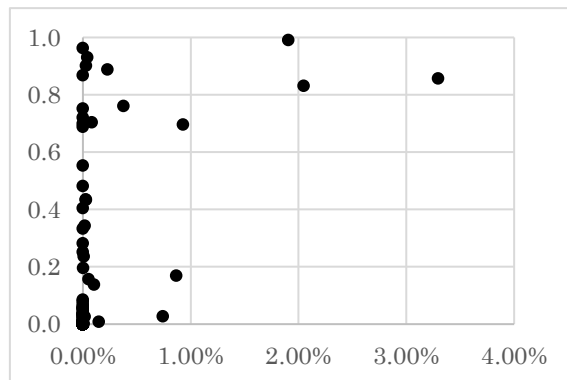
(11) 西麻布にはステキで人気のあるいいお店がたーくさんあるのに。(OC11_00688)

(12) 膿んだら、てえへんなことになるぞ。お医者さんに、刀で切ってもらえ。(LBbn_00013)

(13) ブームになって初来日した時か帰る時に、空港にた〜くさんのファンが来てくれて(自分が想像していた以上の数)それに感動した際にしてたポーズが、胸に手を当てるものだったからだと思います。(OC01_04638)

例(11)のように通常の音に長音を加えたり(たくさん→たーくさん)、あるいは例(12)のように通常の音と母音が違ったり(たいへん→てえへん)する用例があった。また、例(13)のような「〜」記号を使用した用例も見つかった。これは標準の音を表す記号ではないが、「〜」を使用することで長引いた音を表していると考えられるため、本研究においてはすべて音声転訛形として扱う。そこで、個々の漢語の音転訛形の比率を求めた結果、以下のような図 5 が得られた。

図 5 漢語の音転訛形比率と仮名表記率の散布図



一般に、標準の音との間に乖離が見られる場合に、仮名表記される頻度が高いと予想されるが、各漢語の音転訛形比率と仮名表記率との相関を求めたところ、両者の間には中程度の相関が認められた($r=0.466, p<.001$)。間淵(2017)では、常用漢字表外字を含む漢語では音声転訛形のある語は仮名表記率が高く、常用漢字のみからなる漢語の場合、そのような差が見られなかったと報告されたが、今回の結果から見れば、常用漢字のみからなる漢語の場合(すでに述べたように今回のデータにおいて常用漢字外の漢語は「勿論」の1語しか存在しない)でも、音転訛形の多い語は仮名表率が高い傾向が見られた。

(C) 意味特性の影響

最後に、f.意味分野について、個々の語について語義分類を調査する。すでに述べたように、ここでは、まずより大きなまとまりである語義部門と仮名表記率の関係を概観してから、より小さいまとまりである中項目と仮名表記率の関係をみていく。

はじめに、個々の漢語の分類部門を調査した結果、以下の図 6 が得られた。なお、「その他の類」には部門を設けていないため、そのまま「その他の類」としてまとめる。

図 6 意味分野(部門)と仮名表記率

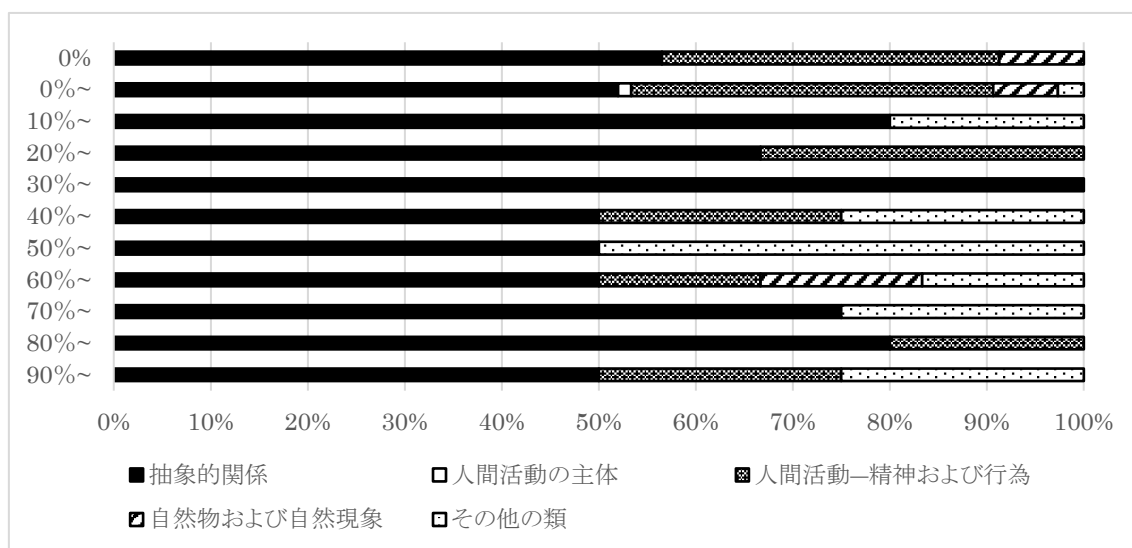


図 6 を見ると、〈人間活動の主体〉(例:上手)と〈自然物および自然現象〉(例:透明,柔軟)という 2 つの語義部門に属する漢語の仮名表記率が低く、「奇麗」の 1 語以外にすべて 10%以下であることがわかった。

また、「その他の類」に属する漢語の仮名表記率がより高いことも確認された。すでに述べたように、「その他の類」には部門を設けていないため、具体的な中項目を見ると、「残念」(中項目は《挨拶》である)の 1 語以外に、残りのものはすべて《判断》という中項目に属している。なお、この点についてはまた後で記述する。

則松他(2006)では、〈抽象的關係〉〈人間活動—精神および行為〉という 2 つの意味分野において、カタカナ表記語が頻出されると報告されたが、今回の結果から見れば、仮名表記率のどの階層においても〈抽象的關係〉と〈人間活動—精神および行為〉という 2 つの部門に属する漢語が多かった。この点について、(1) ひらがな表記も数えたこと、および、(2) 副詞化しやすい漢語(そのほとんどは〈抽象的關係〉〈人間活動—精神および行為〉という 2 つの意味分野に属する)に絞ったことに起因しているのではないかと考えられる。

次に、個々の漢語に属する意味分類の中項目について調査した結果、以下の図 7 が得られた。

図 7 意味分野(中項目)と仮名表記率

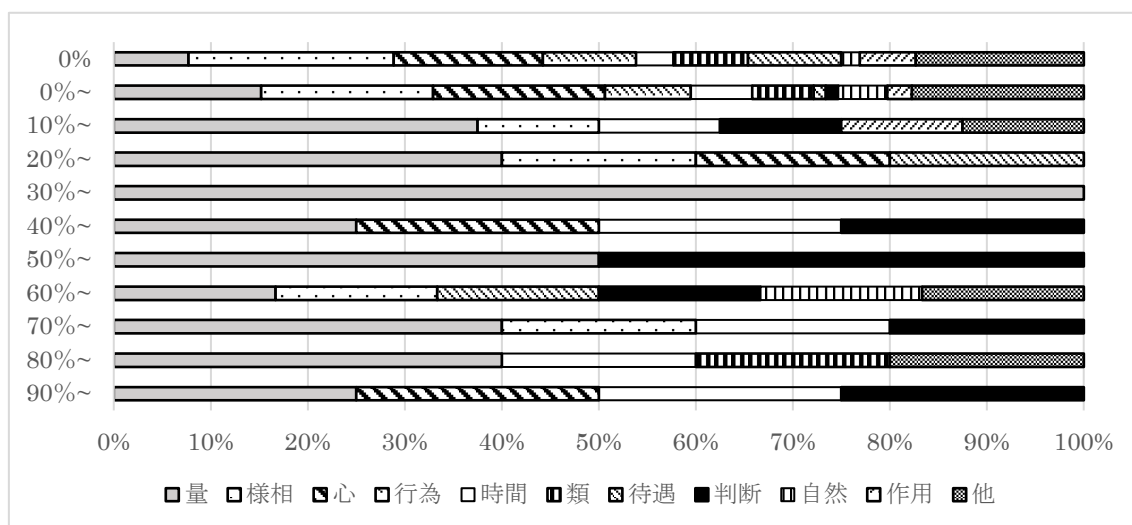


図 7 を見ると、《判断》という中項目に属する漢語は仮名表記率が高いことがわかった。以下、具体的な用例を見ていく。

(14) もちろん、野球を続けると意志は堅い。(LBk3_00094)

(15) 実際に見ると数字以上に大きく迫力がありますので、ぜひ会いに来てください。
(OP50_00001)

上記のように、「もちろん」(例 14)や「ぜひ」(例 15)など、物事について直感的あるいは論理的な判断を表す副詞は仮名表記しやすいことが、今回のデータからわかった。

また、《行為》という中項目に属する漢語は仮名表記率が低いことがわかった。たとえば、以下の用例を見てみよう。

(16) 憲平は彼らの前を堂々と通ってきたらしい。(PB1n_00057)

(17) 慎重かつ、大胆に、はわれわれのモットーです」(PB29_00237)

このように、人間の行為のありさまを表現する副詞・形状詞は漢字で表記することが多かった。

以上 RQ2 では、(1) 漢字特性の影響、(2) 音韻特性の影響、(3) 意味特性の影響という 3 つの観点から、仮名表記率に影響する要因について調査を行った。その結果、(1) 漢字特性について、仮名表記率は a.親密度と b.画数との関係が薄いこと、(2) 音韻特性について、音転訛率と仮名表記率との間に中程度の相関があること、(3) 意味特性について、〈人間活動の主体〉と〈自然物および自然現象〉という 2 つの語義部門に属する漢語の仮名表記率が低く、また、《判断》という中項目に属する漢語は仮名表記率が高く、《行為》という中項目に属する漢語は仮名表記率が低いこと、などが明らかになった。

4.3 RQ3 実例調査(奇麗)

RQ3 では、具体的な漢語を取り上げて、仮名表記はどのような意味機能的特性を持っているかを調査していく。ここでは、RQ1 で得られた仮名表記率に基づき、仮名表記率が 30%～70%にある漢語の中、重要度ランキングが高い「奇麗」を例として調査していく。なお、「奇麗」の表記について、今回 BCCWJ から「きれい」(6784 語)、「綺麗」(3358 語)、「キレイ」(1261 語)、「奇麗」(200 語)、「ぎれい」(108 語)、「きれえ」(2 語)、「キレイ」(2 語)、「ギレイ」(1 語)、「きれみ」(1 語)という 9 種が抽出されたが、漢字表記として頻度の高い「綺麗」を調査対象として絞る。また、仮名表記について、同じ仮名表記といっても、ひらがな表記とカタカナ表記には意味機能の差も存在する可能性があると考えられるため、ここでは、ひらがな表記「きれい」とカタカナ表記「キレイ」の両方とも調査対象とする。以下、(1)分野、(2)品詞用法、(3)共起語という 3 つの観点について、ひらがな表記、カタカナ表記、および、漢字表記においてどのような意味機能的差異があるかを調査する。

まず、(1)使用される分野は表記の選択との関係について、各ジャンルにおけるそれぞれの表記の頻度を調査した結果、以下の表 7 が得られた。

表 7 各ジャンルにおける 3 つの表記の頻度

分野 \ 表記	きれい	キレイ	綺麗
書籍	4027(59.56%)	253(20.08%)	735(21.89%)
雑誌	569(8.42%)	219(17.38%)	45(1.34%)
新聞	39(0.58%)	2(0.16%)	0(0%)
ブログ	808(11.95%)	354(28.10%)	1561(46.50%)
広報紙	262(3.88%)	7(0.56%)	5(0.15%)
知恵袋	911(13.47%)	425(33.73%)	1011(30.12%)
国会会議録	80(1.18%)	0(0%)	0(0%)
教科書	60(0.89%)	0(0%)	0(0%)
白書	5(0.07%)	0(0%)	0(0%)
合計	3357(100%)	6761(100%)	1260(100%)

表 7 に基づき、3 つの表記を比較すると、「きれい」は書籍・白書・教科書・国会会議録・新聞・広報紙・ジャンルにおいて特徴的に使用され、「キレイ」は雑誌ジャンルと知恵袋において特徴的に多く使用され、そして、漢字表記「綺麗」は知恵袋とブログジャンルに特徴的に多く使用されることがわかった。

また、新聞・広報紙・国会会議録・教科書・白書のジャンルにおいて、ほとんど仮名表記しか使用しないことに注目を引く。特に白書・教科書・国会会議録という 3 つのジャンルにおいて、「きれい」という表記しか使用されなかったことも確認された。間淵(2017)では、用字の統制が効いている新聞や雑誌などにおいて、表外字や副詞用法を持つ語でひらがな表記の比率が高く、著者の用字がより反映しやすい書籍において表外字の漢字表記が新聞・雑誌より多く、さらに表記統制の影響をうけにくい Web 媒体において漢字表記率が高く、仮名漢字変換の影響として変換候補に

現れる漢字表記を無意識に選択している傾向があると報告された。今回のデータについて言えば、漢字表記における「綺麗」の「綺」は表外漢字となったため、間淵(2017)の結論と合致していると言える。

また、柏野(2013)において、教科書や白書ではカタカナ表記が避けられ、逆に、新聞・雑誌・知恵袋・ブログではカタカナ表記が好まれる傾向があるとされているが、今回漢語副詞・形状詞に絞った場合、確かに教科書や白書においてカタカナ表記を避け、雑誌・知恵袋・ブログジャンルにおいてカタカナ表記を選好する傾向が見られたが、新聞ジャンルにおいてカタカナ表記を好む傾向が今回のデータから見られなかった。

以下、それぞれのジャンルに好まれる表記の用例を見てみよう。

- (18) また、この選挙は、金のかからない、きれいな選挙の実現を目的とした「公職選挙法の一部を改正する法律」の国会審議中に施行されたことから、有権者の関心は高かった。(白書)(OW1X_00187)
- (19) あゆは、きれいな川にしかない魚で、ほかに、いわな、やまめ、さけなどの魚がいます。(教科書)(OT31_00014)
- (20) 訪問販売という言葉、この言葉の持つ意味は、通産当局の説明、関係者の説明はきわめてきれいな表現の中で行われております。(国会会議録)(OM11_00005)
- (21) 商工会青年部では、町民の皆さんにきれいな夜桜を楽しんでもらうため、ライトアップを行います。(広報紙)(OP04_00001)
- (22) 約四十人が、収穫したレタスをみそ汁やサラダにして、きれいに管理された開放感のある庭園で昼食を楽しんだ。(新聞)(PN4o_00017)
- (23) 森がなくなったために、海はやせて海草一つ落ちていないので地中海はきれいなのです。(書籍)(PB12_00263)
- (24) 持っているパウダーを、さっそくチェックしてみては？触れてみたくなるほどの素肌感こそが、キレイの真髄。(雑誌)(PM11_00428)
- (25) 山下クンとはバラエティ番組と一緒にやりましたが、お母さんがキレイです！(知恵袋)(PM11_00062)
- (26) デスクトップ用に綺麗なジブリの画像が欲しいです。(知恵袋)(OC01_02224)
- (27) 加温・循環の状況常に適度な温度を保つ為に加温し、綺麗なお湯を保つ為に循環ろ過しています。(ブログ)(OY01_00854)

上記のように、白書(例(18))・教科書(例(19))・国会会議録(例(20))・広報紙(例(21))・新聞(例(22))・書籍(例(23))ジャンルにおいて「きれい」が選好される。また、例(24)と例(25)のように、カタカナ表記「キレイ」が雑誌と知恵袋に多く使用され、例(26)と例(27)のように、漢字表記「綺麗」が知恵袋やブログに多く使用される。

なお、ここで注目すべきは、どのように「綺麗」が使われているかによって、表記が変わってくる可

能性があることである。たとえば、例(18)において、「奇麗」は連体用法に使われているが、例(24)においては名詞として使われ、この名詞を全体から際立たせるためにカタカナ表記が使われた可能性も考えられる。

そこで、以下は各表記が使われた(2)品詞用法について見ていく。個々の表記が各文章においてどのように使われているかを調査し、筆者がラベリングした結果、以下のような表 8 が得られた。

表 8 各用法における 3 つの表記の頻度

用法 \ 表記	きれい	キレイ	綺麗
「ナ」用法	2040 (30.09%)	274 (21.73%)	985 (29.65%)
「ニ」用法	2770 (40.86%)	518 (41.08%)	1086 (32.69%)
「ダ」用法	1567 (23.11%)	342 (27.12%)	1121 (33.74%)
名詞用法	48 (0.71%)	45 (3.57%)	24 (0.72%)
定型句用法	355 (5.24%)	82 (6.50%)	106 (3.19%)

表 8 を見ると、3 つの表記における各用法の関係が以下のようにになっていることが確認された。

きれい:「ナ」用法>「ニ」用法>「ダ」用法>定型句用法>名詞用法

キレイ:「ニ」用法>「ダ」用法>「ナ」用法>定型句用法>名詞用法

綺麗:「ダ」用法>「ニ」用法>「ナ」用法>定型句用法>名詞用法

上記から、3 つの表記の用法について、上位 3 種の順位が若干違っているが、その比率が類似していることがわかった。

なお、名詞用法について、どの表記も低い頻度で使われているが、カタカナ表記「キレイ」の名詞用法は他より 5 倍多いことが注目を引くところである。たとえば、以下の用例を見てみよう。

(28) 独自の大量発汗とともに、毒素排泄し、お客様のキレイを「体質美人」というカタチで目指します。(OY07_00379)

(29) 医学的視点からキレイを実現、ドクターズコスメの力を研究。(PM21_01033)

上記の用例のように、特に商品の宣伝文章において、「奇麗」が名詞として使われ、意味的には実現しようとする目標として捉えている時にカタカナ表記が使いやすい。中山(1998)では、見出し語などの強調、そして視覚的効果を狙っている場合でカタカナ表記を使用すると報告され、また、則松他(2005)においても、前後のひらがな連続への埋没を回避し、視覚的にきわだたせる効果を発揮するためにわざとカタカナ表記を使用すると報告された。この点について言えば、上記の用例におけるカタカナ表記の使用も、「奇麗」という概念が表記上きわだたせたいという目的からなので

はないかと考えられる。

最後に、「奇麗」の各表記の共起語について見ていこう。

表 9 連体用法で使われている時に「奇麗」と共起する体言上位 10 語

	きれい(計 985 語)		綺麗(計 2040 語)		キレイ(計 274 語)	
1	人	73	花	45	色	10
2	水	61	人	40	お姉さん	9
3	色	59	もの	25	人	9
4	もの	57	色	25	物	9
5	花	47	顔	20	女性	8
6	ところ	31	方	19	花	6
7	女性	26	女性	19	体	5
8	川	24	お姉さん	15	人名	5
9	顔	24	子	13	カール	5
10	子	22	目	11	顔	4
	形	22			状態	4
					肌	4
					脚	4

表 10 「ニ」用法で使われている時に「奇麗」と共起する動詞上位 10 語

	きれい(計 1086 語)		綺麗(計 2770 語)		キレイ(計 521 語)	
1	する	468	なる	257	なる	117
2	なる	453	する	134	する	76
3	見える	98	見える	57	見える	25
4	洗う	76	咲く	35	見せる	17
5	掃除する	40	できる	26	仕上がる	15
6	できる	36	洗う	23	落とす	9
7	取れる	36	撮れる	21	取る	8
8	咲く	35	掃除する	13	撮れる	7
9	仕上がる	29	取れる	13	できる	7
10	見せる	29	いる	12	撮る	6

表 11 「ダ」用法で使われている時に「奇麗」と共起する主語上位 10 語

	きれい(計 1121 語)		綺麗(計 1567 語)		キレイ(計 339 語)	
1	色	24	花	27	色	7
2	水	24	海	21	肌	6
3	花	20	肌	21	人名	6
4	肌	20	夜景	16	夜景	5
5	海	20	〇〇さん	14	ライン	5
6	見た目	18	色	12	仕上がり	4
7	人名	17	雲	12	あなた	3
8	目	13	人名	12	お母さん	3
9	空気	13	紅葉	12	〇〇さん	3
10	景色	13	水面	11	写真集	3
					グラデーション	3
					店内	3
					夕焼け	3
					カール	3

表 9～表 11 を見ると、まず、「ナ」用法において、3 つの表記と共起する体言上位 10 語のうち、5 語が 3 つの表記とも使用され、また、3 語が 2 つの表記とも使用されること、次に、「ニ」用法について、4 語が 3 つの表記とも使用され、また、7 語が 2 つの表記とも使用されること、最後に、「ダ」用法について、3 語が 3 つの表記とも使用され、また、4 語が 2 つの表記とも使用されることがわかった。この重なり度について言うと、3 つの表記の上位語には大きな差異がなく、共起語によって表記が選択される傾向が今回のデータから見られなかった。

以上、RQ3 において、漢語「奇麗」を例として、(1)分野、(2)品詞用法、(3)共起語という 3 つの観点から、ひらがな表記、カタカナ表記、および、漢字表記においてどのような意味機能的差異があるかを調査した。その結果、(1)分野について、用字の統制が効いている新聞や教科書などの媒体においてひらがな表記「きれい」が多用され、雑誌と知恵袋において「キレイ」が多用され、また、個人的な用字傾向が反映しやすいブログや知恵袋など Web の媒体において漢字表記「綺麗」が多用されることが確認された。また、(2)品詞用法と(3)共起語について、3 種の表記の間には大きな差異がないことがわかった。すなわち、「奇麗」に限って言えば、表記の選択は、使用される分野による影響が大きく、この語の用法と共起語による影響がより薄いと言えるであろう。

5. まとめ

以上、本研究では、漢語副詞の仮名表記問題について調査を行った。その結果、以下のような知見が得られた。

- (1) 漢語副詞・形状詞に絞った場合、仮名表記は全表記の 2 割程度、仮名表記を持つ漢語の数は全漢語の 7 割程度を占めているが、仮名表記を持つ漢語のうち 7 割以上は「局所的・例外的出現」のレベルを超えない範囲で仮名表記を使用している。また、仮名表記率の高い副詞について、構成する 2 文字の漢字の意味との関連がより薄く、直接単語の意味を推測することが難しい傾向がある。…4.1 節
- (2) 影響要因：仮名表記率と音転訛率との間に中程度の相関があり、そして、〈人間活動の主体〉と〈自然物および自然現象〉という 2 つの語義部門に属する漢語の仮名表記率が低く、また、《判断》という中項目に属する漢語は仮名表記率が高く、《行為》という中項目に属する漢語は仮名表記率が低い傾向がある。…4.2 節
- (3) 漢語「奇麗」を例とした場合、表記の選択は使用される分野による影響が大きく、この語の用法と共起語による影響がより薄いと言える。なお、カタカナ表記「キレイ」について、他の表記より名詞用法に多用され、視覚的にきわだたせる効果を発揮する傾向があることが明らかになった。…4.3 節

ただし、本研究の課題として、質的用例分析のサンプル語は 1 語に限られていることが挙げられる。今後、さらなる高頻度語を質的調査のサンプルに取り上げ、得られた結論が他の語においても再現されるかについて調査し、さらに分析の精緻化を図りたい。

引用文献

- 奥垣内健(2010)「カタカナ表記語の意味についての一考察:身体性とイメージの観点から」『言語科学論集』(京都大学) 16,79-92.
- 小椋秀樹(2012)「コーパスに基づく現代語表記のゆれの調査:BCCWJ コアデータを資料として」『第1回コーパス日本語学ワークショップ』(国立国語研究所),321-328.
- 柏野和佳子(2014)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』によるカタカナ表記語の研究』『日本語学』(明治書院) 33(10),98-103.
- 喜古容子(2007)「片仮名の表現効果:戦後の小説を資料に」『早稲田日本語研究』16,61-72.
- 金城ふみ子(1998)『大学広告』におけるカタカナ表記語及びアルファベット表記語の使用状況:調査報告』『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』10,97-118.
- 斎賀秀夫(1955)「総合雑誌の片かな語」『言語生活』(筑摩書房) 46,37-45.
- 佐竹秀雄(1989)「若者の文章とカタカナ効果」『日本語学』(明治書院) 8(1),60-67.
- 土屋信一(1976)「新聞語彙調査のカタカナ表記語」『昭和 50 年度国立国語研究所研究発表会要旨:用語用字調査と機械処理』(国立国語研究所),34-39.
- 鄧琪(2021)「非和語系語彙の連体修飾用法に対する一考察:異なる連体標識の許容度に注目した計量調査」『統計数理研究所共同研究レポート』444,123-138.
- 中山恵理子(1998)「非外来語の片仮名表記」『日本語教育』(日本語教育学会) 96,61-72.
- 成田徹男・榊原浩之(2004)「現代日本語の表記体系と表記戦略:カタカナの使い方の変化」『名古屋市立大学大学院人間文化研究科人間文化研究』2,41-55.
- 日本語教育学会(編)(2005)『新版日本語教育事典』大修館書店.
- 則松智子・堀尾香代子(2006)「若者雑誌における常用漢字のカタカナ表記化:意味分析の観点から」『北九州市立大学文学部紀要』72,19-32.
- 堀尾香代子・則松智子(2005)「若者雑誌におけるカタカナ表記とその慣用化をめぐって」『北九州市立大学文学部紀要』69,35-44.
- 増地ひとみ(2013)「テレビ番組の文字情報における文字種の選択:番組のジャンルと語用論的要素に着目して」『早稲田日本語研究』22,24-35.
- 松田梨江(2007)「外来語の変遷:新聞記事における外来語とカタカナ表記語」『東京女子大学言語文化研究』16,115-132.
- 間淵洋子(2017)「漢語の仮名表記:実態と背景」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』(国立国語研究所) 1,201-213.
- 山崎誠(2011)「第2章 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の設計」『＜現代日本語書き言葉均衡コーパス＞利用の手引き 第1.1版』(国立国語研究所),20-27.
- 吉村弓子(1982)「現代日本語における漢字の表意性」『言語学論叢』(筑波大学) 1,2-16.